

## 第 11 回 東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事概要

- 1 日 時 平成 29 年 11 月 16 日 (木) 14:00~16:00
- 2 場 所 備前市役所 3 階 大会議室
- 3 出席者及び構成員等 委員 12 名 (内アドバイザー 1 名)  
ワグザバー 2 名 (岡山県 2 名)  
事務局 8 名 (備前市 4 名、赤穂市 3 名、上郡町 1 名)  
説明員 9 名
- 4 議事の概要

事務局 定刻になりましたので、只今から、第 11 回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。

開会にあたり、座長の備前市自治会連絡協議会会長 宇治橋様よりごあいさつをいただきたいと思ひます。

座 長 本日は第 11 回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたしましたところ、委員の皆様には何かとご多用の中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。今回より新しく委員になられました方におかれましてはどうぞよろしくお願ひいたします。さて、この東備西播定住自立圏では、圏域全体の魅力の向上、活力ある地域づくり、住みよい圏域形成を目指して、圏域共生ビジョンに基づいた様々な事業を展開しているところであります。本日は、共生ビジョンに記載した取組みの進捗状況の報告や、平成 30 年度のビジョン見直し(案)についてご検討いただくとともに、住みよい圏域形成に向け、お互いに意見交換やご提案をいただければと考えております。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

事務局 ありがとうございます。

会議の前に、構成員等本日の出席者の紹介をさせていただきます。

(名簿により構成員等の紹介)

それでは、ここからは座長に議事進行をお願いいたします。

座 長 それでは、お手元の次第に従いまして議事を進行させていただきます。第 3 番目「東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について」、事務局から説明願ひいます。

事務局 それでは、東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況として資料 1「平成 28 年度事業報告書」資料 2「平成 28 年度歳入歳出決算額集計」資料 3「平成 29 年度上半期報告」がございますが、資料 1 を中心に説明させていただき、平成 29 年度の進捗状況に関しましては、資料 1 の説明にあわせてポイント、要点のみ説明をさせていただきます。

なお、各取り組みに関する詳細につきましては、本日各部会より説明員が来ておりますので、ご質問等につきましては、説明後にお尋ねいただければと思います。それでは説明いたします。

(資料1、2、3説明)

以上で、東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況についての説明を終わります。

座長 ただいまの報告について、質問がありましたらお願いいたします。

委員 8ページの中学校吹奏楽部交流助成事業の中で事業費が、予算60万に対して、事業費が75万となっていて、全体的にみると予算内におさまっているのですが、この事業だけが15万オーバーしています。その内訳等の説明をお願いします。

説明員 内訳は、把握しておらず、お答えできません。

委員 前回の時に確認した時に予算の内訳について、この事業だけではないのですが、予算をオーバーしている事業については、どのような理由でオーバーしたということの説明があるべきだと思いますので、今後はよろしくお願いします。というのも、赤穂市文化会館を借りるのに20万も30万もかかることはないと思うのですが、なぜ中学生の吹奏楽を含めて運送費経費等の内訳が出ていないのか、この金額を見ていると若干疑問視することが多いと思ったので、今後はきちんと説明できるようにお願いします。

事務局 補足で説明させていただきます。予算が60万のところ事業費が75万になった経緯でございますが、当初、3Mプロジェクトという団体が、27年度まで中学生にご指導いただいていたのですが、事業の継続が難しいという話がありまして、急遽別の講師の方を依頼してご指導いただきました。その講師の方に支払う報償費がそれまでの3Mプロジェクトよりも高額になりましたが、毎年中学生が楽しみにしている事業ということで、引き続き事業を行ったため、事業費が予算をオーバーしております。

委員 内容的には分かるのですが、謝金がいくらというのは、前より高くなりましたというのであれば、比較することが必要であって、ただ「やりました」「15万オーバーしました」ではなく、事業費をオーバーしたという内容が事後報告で通ることにするか、事前に「予算はいくらまで」という事が決定されて事業が行われるようにするか、検討する余地があると思いましたので、そのあたりも含めて議論をしていけたら良いと思います。

座長 ただいまの意見に対して何かありましたらお願いします。

事務局 今後につきましては、いただきました意見を参考に事業を進めていけたらと思います。ありがとうございます。

委員 5ページの文化・スポーツ交流事業で、実施日が11月13日(日)で参加者は4,469人となっております。29年度も11月12日に開催されており、この日が岡

山県の「岡山マラソン」の実施日であって、あえてその日にされたのかという点が1点と、25ページの「定住相談会開催等事業」について、28年度は3回開催し、相談件数等が記載されており、29年度についても同様に開催されていますが、相談会に来られた方が、実際移住されてきたかどうかという実績をとられているかということと、アンケートをとられているかということ、この2点をお伺いしたいと思います。

説明員 最初の質問の「赤穂シティマラソン」の件ですが、赤穂シティマラソンは今年が第7回という事で歴史が古く、今年度も「岡山マラソン」と同じ日になっております。あえて同じ日にしたというよりは、「岡山マラソン」が後から決まったということでございます。

交流定住部会から2点目について説明させていただきます。「定住相談会開催等事業」について定住相談会により実際に定住に結び付いた方の実績のご質問かと思いますが、赤穂市で1件、上郡で1件、あわせて2件の実績があったと聞いております。アンケートにつきましては、各市町で転入・転出のアンケートをとっており、その結果で定住相談会を活用して転入してきたという理由は分かります。先ほど申しました2件の移住者については、定住奨励金の交付を行っておりますのでその申請が2件あったという事でございます。

座長 他に質問はありませんか。

委員 26ページの「カップリングパーティ」でございますが、28年度は12組カップルが成立しておりますが、その後の成婚数は把握されているかということと、追跡調査をされているかという点をお伺いしたいと思います。

説明員 縁結び事業の「カップリングパーティ」での成果ということですが、赤穂市で1件成婚の見込みがあるということを知っております。追跡調査については、プライバシー等の問題もありまして、出来ていないのが現状であります。

座長 他にありませんか。ないようでしたら、これで東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況についての報告を終わらせていただきます。

続きまして、「4 協議事項」に入りたいと思います。「東備西播定住自立圏共生ビジョンの見直し（案）」について事務局から説明願います。

事務局 事業進捗状況及び協議状況を踏まえまして、来年度に向けた共生ビジョンの見直し（案）を説明いたします。資料4をご覧ください。

（資料4説明）

以上で平成30年度ビジョンの見直しについての説明を終わります。

座 長           これにつきまして、ご意見ございますでしょうか。

秋川先生何かご意見をいただけますでしょうか。

アドバイザー    いつかの情報提供を含めましてお話させていただきます。1つはトップアスリートを育てるプログラムがありましたので、昨年度と今年度につきましては、岡山シーガルズの方が来ていただいたの事業実施ということでございます。赤穂の方はご存知だと思いますが、「ヴィクトリーナ姫路」と関西福祉大学は包括連携を結びました。全国から優秀な学生が集まってきて、様々なところで一緒にやりましょうとなっていますので、情報提供しておきたいと思います。それから、今日の見直し案については拡大をして、より広く圏域の方々に見ていただくという事でございますので良い事だと思います。それから定住自立圏全体の事業についてのことですが、今、圏域の中で共生ビジョンのこれからの狙いといいますと、最大の課題は、この地域に住むための仕事と、特に今、女性が働く社会、あるいは一億総活躍といいますか、女性たちの働く場所と、働くための環境としての子育ての支援、特に保育所。これはどのまちも待機児童がいるいないにかかわらず、保育士の不足ということですが、全国で各まちが保育士の取り合いをするような状況になっています。ご存じのように神戸市では就職してくれるのであれば、就職前の手付金のようなものを支払っています。姫路市では、近くで募集してもなかなか集まらないという事で東京でも募集活動を行っています。また、たつの市では大学生を対象として無料の保育園ツアーを実施しているような状況があつて、どこの自治体でも保育士が足りない状況です。昨日、赤穂市でもお話を伺いましたけれども同様に人が足りない状況のようです。こういったところは、ビジョンの定住を進めていく上で大変大事な事ですので、ビジョンそのものの見直しについてももう少し「子育て支援」とか「保育環境」についても充実させていただけたらと思っています。子どもたちにとっては、学校外での活動も非常に大事ですが、小さいお子さんをお持ちの方が過ごしやすい事が非常に大事な事だと思います。もう少し子供がたくさん生まれてくるようになってくると備前市には産科がございませんので、助産関係の施設等が本当に必要になってくるのではないかと思います。次に、大学の状況をお伝えしますと昨年、博士課程の大学院が出来るという事をお伝えしましたが、これはドクターをとるために学生が入学してスタートしておりますので、それがうまくいきましたという事をまずは報告させていただきます。それから、昨年度来計画をしてきました私がおります教育学部に保健教育学科という学部ができました。これは中学高校の体育の教員と、保健の教員の養成という事で設置を求めてまいりましたところ、これも許可がおりまして、来年4月から学生が入ってきます。また、本学のスポーツのいくつかになりますが「指定強化」ということで、優秀な学生たちを募集していてその多

くが教員を目指しています。特に「指定強化」の学生たちは大学がどこでもスポーツは共通しておりますので、かなり良い素質を持った学生たちが集まってくると思います。その学生たちの地域への貢献という事もありますので特に、コーチ陣でオリンピックのコーチであった「水野」という方が監督として就任されることが決まっております。オリンピックが本学のバレーの指導をやってくださるといふ事になりますので、そういった方も含めてさらに地域への貢献を進めていきたいと思っておりますので、一緒にやらせていただければと思っております。それからもうひとつ保健教育学科の学部だけではなくて、大学院が出来ました。これは小学校の教員の修士課程で、専修免許が取れる過程になっています。昔は、自動的な仕組みがあったのですが、現在は大学にもどって専修免許を取りに行くという仕組みになっております。これは完全なる新設ですので、文科省の許可を得ました。もうひとつ申し上げますと、そこで勤める教員の審査を文科省がするのですが、レベルごとに審査の厳しさが違いますので、そういう意味でより優秀な先生方が関西福祉大学におられるという事になると思います。新しい組織が出来ることによってAKBの様々な事業に参加できるのではないかと思います。

全体について申し上げますと、報告書の結果のところ、人数等ではなくて、どのような成果があったかということに記載していただくとうれしいと思えました。たくさん事業をやっている中で、どこにどうお金をかけていくべきかという事を検証して見直していくことが必要だと思います。たえず見直しをしながら新しい事に取り組んでいくというアクティブなことをやっていかないと、効果、成果がなかなか上がらないと思います。アクティブにフレキシブルに考え事業を行っていただけたらと思います。

まとめると、2市1町が協力して、子育て支援あるいは保育士の確保に努めていただきたいという事。成果をもう少し報告書の中に盛り込めないかという事を申し上げました。

座長 秋川先生ありがとうございました。非常に貴重なご意見をいただきました。これについて、他にご意見ありませんか。

委員 民間イベントの助成事業についてですが、やられていることは非常に良い事だと思いますが、行政の補助金をもらわれているにも関わらずこの助成金を受けている団体のすみわけが必要ではないかという事と、別の団体で、同じような事業の内容が見受けられるような気がします。2市1町が関係してやっている事業であれば良いのですが、単独で行っている事業が補助金を受けているようなことがあれば、どのように整理をしていくのか聞かせていただきたいと思っております。

説明員 民間イベント助成事業補助金の上限は継続の団体は15万円で、新規は20万円で差別化しています。

委員           ダブルで補助金をもらうという事は可能なのですか。

説明員       今現在では、私はその議論に参加しておりませんので申し訳ありませんが分かりかねます。

事務局       募集の要項のなかでは細かい規定は書いておりませんので、たとえば、定住自立圏で補助の対象となったイベントが他の自治体の補助金を受けているかどうかは確認しておりませんが、2重で補助金を受けることは不適切であると思いますので、今後、検討する必要があると思います。

委員       今回のビジョンを策定するときには、補助金の2重取りについて議論はされていたかと思うのですが、現状、その確認が出来ていないのであれば、補助金をダブルで受けることは不適切だと思いますので検討をお願いします。

事務局       ご指摘のあった件については、検討したいと思います。

委員       新しい事業がなかなか出てこないのであれば、今後、新しい事業が出やすいように、「他にもこんな方法で新しい事業ができますよ」という提案をしていただけたらと思いますのでよろしくをお願いします。

座長       ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。

委員       違った点からお願いをしたいと思いますが、例えば、市とか町が隣り合っておりますと、うちには関係ないが隣町には関係あるというような事業をこの定住自立圏の事業でやっていただけないかということでもあります。具体的には、通学路の安全対策事業という問題で、例えば小中学校は同じ市町の中で通学路があるのですが、高校生になりますと隣の市町に通学路がある場合があるということがありまして、その時に例えば赤穂と上郡は隣同士なのですが、上郡というのは上郡駅に通学する人と、有年駅に通学する人がいます。そうしますと上郡町内の人が上郡駅に行く場合は上郡町内の問題なのですが、有年駅に行く場合は赤穂市を通過して駅に行くという状況でありまして、そうすると上郡の要望はなかなか赤穂市には受け入れられないという現状がありまして、そういう時にこういった共通のお金を使っていただきますとうまくつながるのではないかなと思います。住民としては必要なことでもありますので、なんとか検討していただければと思います。

座長       ありがとうございます。自治会の会長として地域に精通した方からの要望であります。これについてお答えいただけますか。

事務局       3市町すべてに関わることにに関して定住自立圏の事業を進めてきた経緯がありますのでなかなか難しいと思います。

委員       イベントを実施することは良いとは思いますが、こういった問題を違った面から検討して、なんとかこの問題を解決する手法を考えていただきたいという希望でございます。

アドバイザー   ひとつの方法としては、自治会同士のお話合いの中で、まず、この話を出して

いただいて、その土地がどこの管理であるかなど色々と確認をしなければならない事はありますが、両地域から要望があれば、役所も連携が出来ているはずですから、なんらかの対策を検討してくださるとは思いますが、相当、色々と調整をしながらやっついていかないとうまくいかない事だと思います。

委員           なかなか自治体間等で解決しない問題については、共通で使えるお金をつかって解決できないかということでございます。

アドバイザー   道路を照らすこと自体に許可が必要ですので、いろいろと確認が必要だと思いますが、たとえば、自前で懐中電灯等用意してもらって持って歩く、そういったことに支援をする事は出来ると思います。対象の地域が、どこの管理でどういった問題があるかなどについては、行政側と協議、調整することは出来ると思います。

座長           他には何かありませんか。

委員           13ページの地域ブランド発掘事業ですが、27年度の2件はどういった内容なのかということと、28年度の事業について、進捗状況を教えていただけたらと思います。

説明員          27年度ですが、赤穂市で赤穂塩ベジタブル事業ということで、塩を使った野菜作りを行い、上郡町では、特産品販売促進のぼり作成を行っております。28年度については赤穂の塩ベジタブルと備前市の日生産カキの流通強化事業ということでカキのパックを作成しております。29年度については、上郡町でモロたまプリンの開発支援と備前市で瀬戸内小魚料理のパンフレットを作成しております。

委員           現状は、赤穂の塩ベジタブルと上郡のモロヘイヤと備前市のカキと小魚パンフレットとですかね。31年度の目標値は6件と各市町で2件ずつ出れば良いと思います。

座長           他にありませんか。

それでは、お諮りいたします。東備西播定住自立圏共生ビジョンの平成30年度見直し(案)については、原案のとおりとしてよろしいか。また、平成30年度事業費の確定後に委員の皆様へ平成30年度版共生ビジョンを送付させていただき報告するという事によろしいか。

(「よろしい」の声)

ありがとうございます。それでは平成30年度共生ビジョン見直し案については承認されました。

次に5番目の意見交換に移らせていただきます。

委員の皆様から、3市町が今後、発展、活性化していくための貴重な意見交換でございますのでご自由にご発言願います。

委員           本日、お手元にお配りしております赤いパンフレットを見ていただきたいのですが、兵庫県のバス協会が路線バスを使っているいろいろな方にバスに乗っていただくというものです。後ろのページを見ていただきますと、この定住自立圏の「て

いじゅうろう」というバスが西播磨の2デイフリーのところで、利用できるバスの中に入っております。これは今年度からこの「ていじゅうろう」も乗れることになっております。兵庫県のバス協会が昨年度から実施しました関係で今年度が2年目になりまして、だんだんエリアを拡大してやっと岡山まで路線バスで結べるようになったということがまず1点、もう1点は西播磨の定期観光バスという事で、兵庫県から補助をいただいている関係で備前市は入っておりませんが、上郡町、赤穂市に関してこういった定期観光バスのルートを3コース用意させていただきました。このプランは定期観光バスということで1名からでも運行しますので、どんどん利用していただきたいと思います。それと最後に本題のお話をさせていただきたいと思います。「ていじゅうろう」は本日の資料にもありましたように上郡ルートは利用者が伸びておりますが、備前ルートのほうが昨年から減少傾向にあります。その原因は、備前市が市内の公共交通を見直しされまして、市内完結型の公共交通が定着しつつあるという事が伺えます。そこでご提案ですが、各市町で、交通政策は人の利用について「パーソントリップ」というものをとられていると思います。それを備前市様には是非ともとっていただけて地域のほうがどの方面に何のために移動しているのかを比べてみる必要があるのではないかと思います。といいますのが、以前は備前市において日生運輸の備前バスさんがこの地域においてやっておられましたが撤退されたという事で、私ども兵庫県にしか足場がない事業者がそのあとをつないでいるという事で、なかなか岡山の情報が入りにくいということがありますので、その点も今後は備前市さんと協力しながら行ってまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

説明員 備前市では市営バスを運行しておりまして、直営部分とタクシー事業者への補助がありますが、利用者については毎月把握しておりますので、有効な情報がありましたら提供させていただきたいと思います。

座長 その他何かありませんか。

委員 先ほどお話がありました地域ブランド発掘事業の件ですが、陶酔房様が上郡町商工会の会員でございまして、「もろたまプリン」は、兵庫県立上郡高等学校の鶏が食べましたエサの中にモロヘイヤを入れまして、その卵をつかったプリンを開発されております。今年も、上郡高校生と一緒に陶酔房様が販売されまして非常に好評を得たということで、非常に頑張られております。こちらの補助金を活用してしっかり事業を行われています。以上、報告をさせていただきます。

座長 前向きなうれしい報告がありました。ありがとうございます。他にありませんか。

委員 先ほど秋川先生から、保育士が少ないというお話でしたが、赤穂市でも常時というぐらい、保育士を募集しています。上郡町、備前市はどのような状況でしょうか。もし赤穂市のように常時募集が必要な状況でないのであれば、赤穂市に来ていただき、また赤穂市からも他の市町に動けるような体制がとられているのかどうか。もしとられていないのであれば、とったほうが良いのではないの

かというお話がお聞きできればと思います。

事務局

備前市でも同じように毎年募集をしております。採用試験についても、募集人員に対してはそれなりの人数が来ておまして、予定人員の採用には達しております。ただ、4月の予定人数には達していますが、そのあと入園希望が随時追加で出ておまして、そうなりますと、年度の中途から後半になってきますと、不足してくる状況があり、入園をお待ちいただくことになっていると聞いております。随時募集はしておりますが、なかなか思うようには採用できないという状況であります。

委員

上郡町の場合は、どのような状況でしょうか。

事務局

3年ほど前の状況で言いますと、上郡町は待機児童はいないという状況になります。仕事として働く場合は、途中で退職して上郡町に来るとするのはクラスを持つ関係でなかなか難しいと思いますので、年度当初は、募集をすれば、必要数確保されています。あと上郡町から赤穂市、たつの市へ保育士として働きに行かれていた方はおられます。給料等の条件が良い職場へかわる方もおられます。ただ、保育所の仕組みとしては、11月ぐらいに翌年度の申込を受けて、そこから保育士の調整をしていきますので、上郡町の場合は今のところ、保育士の確保はできている状況であります。

委員

ありがとうございました。先ほどの市町の境界の話がありましたが、せっかくこのような機会があるのですから、いろいろと規則等もあると思いますが、もう少し柔軟に考えて、子ども達に優しくできればと思います。

委員

今、世の中は少子高齢化が進み過疎になっていて、いろいろな事業が出来なくなっていると思いますが、それでも何とかならないかと、もがき続けたいと思いません。そのためお互いが政治力を発揮しないといけないと思います。

アドバイザー

先ほどの待機児童の件ですが、赤穂市も待機児童はいません。ですが、他の市町と同様に年度途中での入園のケースがあります。3人に対して1人保育士が必要になりますので、場合によっては、保育士の確保が難しい状況です。赤穂市は登録制をとられていて、必要になれば来てくださいとお願いをするのですが、すぐに対応するのは難しい状況のようです。そういう意味では待遇が良い職場へかわられるケースもあり、お互いに取り合いになることも考えられますので、その点は協定を結んで上手にする方法があればと思います。これは、国が進めていかななくてはいけない仕組みだと思いますが、なかなか出来ておらず、都市部では、お金をかけて保育士を引き抜いている状況があります。そうすると、周りのまちの保育士が足らなくなって待機児童が出てくることになってますが、この圏域ではそうなることのないように協力して進めていければと思います。それから、市町の境界の話ですが、これは非常に難しい問題でルールを無視するわけにはいきませんから、解決できるよう調整していただくことが必要だと思います。赤穂では、まだまだ役所に行ってお願いをして行政サービスを提供してもらおうという発想が強いと思います。備前ではNPO等の地域住民の活動が赤穂よりもたくさんあります。

これからは、お願いして役所にやっていただくという発想ではなく、自分達の事は自分達で解決するという市民参加型の発想が必要だと思います。いろいろな人がいろいろな知恵を出し合って、自分達のために自分達でやっていくという発想が必要だと思います。また、男女共同参画の視点から言いますと、このような場に、もっとたくさんの女性が入ってもっと活発に議論をすると、その中から非常におもしろいアイデアが生まれてきます。そういう意味ではいろいろな場所でもっと女性に貢献していただければと思います。

委 員

1点だけよろしいでしょうか。定住自立圏は平成22年からされていて、5年たって今、第2期に入っていると思いますが、今の3市町は全体的には、他の圏域より進んでいると思います。医療、教育、公共交通については、全国的に見てもすぐ努力されていると感じています。第2期に入って、産業振興も含めて色々な課題を今後どうしていくのかを検討する中で、住民と交流をしながら、なかなか手のつかないところを進めていければ良いと思います。今、行っている取り組みについては全国より進んだことをされていると思いますので今後ともよろしくお願いします。

座 長

ありがとうございました。それでは、意見交換につきましてはこの辺で終わりにさせていただいて、次に事務局から「その他」ということでお願いをします。

事務局

共生ビジョンは毎年見直しをすることとなっておりますが、その際には懇談会での検討を踏ることが必要となっております、本日ご検討いただいたところです。先ほど、ご承認いただきました平成30年度共生ビジョン見直し案につきましては、今後事務局において、総務省との協議等諸手続きを経て、年度末までにビジョンを公表してまいります。秋川先生をはじめ、委員の皆様方からいただいた貴重なご意見も踏まえまして、地域全体における生活機能が向上し、圏域の魅力が向上するようなビジョンにしてまいりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

先日、山陽新聞に民間イベントの事業である「AKBミュージックフェス」の記事が載っていました。定住自立圏で行う各種事業を、少しでも多くの皆様に知っていただき、この圏域の活性化につながるよう努めてまいりたいと思います。

座 長

事務局からの説明が終わりました。

本日は本当にみなさんありがとうございました。

困った事が出てきた時に「出来ない事を出来ない」と言うのではなく、どのようにしたら出来るかを我々から提案し、また別の角度から支援、応援していく事が、2市1町の定住自立圏の目指す最終のゴールではないかと思いました。

これで、閉会とします。ありがとうございました。